

常磐短期大学「2015年度行動計画の対応状況等」について

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等(根拠資料)
I 建学の精神と教育の効果	<p>A 建学の精神 改訂された「心の充実」の教材を有効に利用できるような授業運営を行う。</p> <p>B 教育の効果 キャリア教養学科においてはPDCAサイクルをさらに実質化するために、学科アンケート調査や学習アセスメントの結果また検定資格状況をさらに把握し、次期の教育方針および学習成果に生かす工夫をする。 また、幼児教育保育学科においてもPDCAサイクルをさらに実質化し、教育の質を高めるために、英会話などにみられる学力レベルの幅の広さに対応した授業を実施するとともに、「九つの基礎的能力」およびその応用力を鍛錬する方法を教科の本意を損なうことなく、同時にそのような能力を発達させる方法を研究する。さらに、英語など学力差に考慮したクラス展開を工夫し、履修カルテを有効に利用する。 現代教養講座ではここ数年間で退職などに伴う教員の入れ替わりが生じたため、幅広い教養を担う教員の配置について検討するとともに、現代教養講座の教育目的に合わせて具体的な学習成果の明文化が必要であるかを検討する。</p> <p>C 自己点検・評価 今までの自己点検・評価で示された成果や改善点などを長期計画に生かしていく。</p>	<p>[キャリア教養学科] ① キャリア教育の充実(キャリア形成Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、産業カウンセリングのキャリア教育化) ② 自学自習の習慣化のための検定合格者の増加、勉強会、ボランティアの奨励。</p> <p>[幼児教育保育学科] ① 学習アセスメントテストの結果や、通常の授業に於ける提出物などの評価に基づき、新入生の中で特別な支援が必要な学生に対しては、指導教員を中心に個別指導を実施する。</p> <p>[現代教養講座] キャリア教養学科の定員減に関連して、2016年度の授業数、内容等を見直す計画である。 なお、教科書改訂については、2012～2014年度の取り組みで一区切りしており、2015年度は特に設定しない。</p>	<p>[キャリア教養学科] ① キャリア形成Ⅲについて当初の計画通り、担当教員4名の専門に近い内容を担当役割とし、オムニバス方式とした。また、キャリア形成Ⅰについては大学導入教育から始まり、将来の学習、進路の見直しを考えさせ、キャリア形成Ⅱについては作文等に関するきめ細かい添削指導等を行い、さらに自己を見つめてもらうようにした。また、産業カウンセリングをキャリア心理学として新たに設定しなおすことで合意した(根拠資料:キャリア形成Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの共通シラバス、学科会議議事録) ② 検定合格者については当初の予定より少ない数で推移した一方、勉強会については1年生、2年生共にサークル化した。また、ボランティア参加者は一けた台で推移し、当初の予定より少ない状態であった。今後、来年度はこの状態に対処していく必要がある。(根拠資料:学科アンケート、こども元気プロジェクト参加者名簿、学生支援センターサークル登録)</p> <p>[幼児教育保育学科] ・1年生の入学直後に、指導教員が入学前教育の提出状況を細かくチェックし、不備の多い学生に対して個別指導を行った。夏休みには、「保育の基本用語」というドリル形式のテキストを用いた練習を課し、10月初旬にテストを行ってその成果を確認した。正答率が8割に満たなかった学生67名(46.9%)に対しては、指導教員より特別課題を与え、その後再テストを実施し、基礎学力の補完を目指した。 ・通常の授業に於いても、授業のペースから取り残されがちな学生に対しては、各教員の元できめ細かな指導に努め、授業内容や課題に関する丁寧な説明を個別に行う等の配慮を徹底した。</p> <p>[現代教養講座] ① 教員の配置: 2012年度以来の5名配置に変化はないが、2015年度中に専任教員(期限付)1名が退職、2016年度より特任教員が加わることになった。また、2015年度入学生からキャリア教養学科の定員減、2016年度より非常勤教員に関する方針の変更により、15科目から14科目に、開講数も20から18に変更することとなった。 2015年度第11回教務委員会資料4(第8案_2016年度科目担当者検討_2月.xlsx シート「現教」) ② 学習成果の明文化(基準Ⅰ-B-2観点(1)～(5)と関連): 本講座に関して、明確、測定点検可能な「学習成果」の明文化は不可能であるため、現状のままとする。 (基準Ⅰ-B-1観点(1)～(5)の教育目的・目標も同様) ③ 心の充実 ・キャリア教養学科では、2016年度から内容を一部変更(文学鑑賞2回→文学鑑賞1回)し、受講の仕方、図書館の利用法、作文といった実践的な内容から開始するよう順序を入れ換えた。 ・幼児教育保育学科では、「社会との関わり」に以前からスポーツ大会のボランティアスタッフとして参加し、(2012、2013年度以降)回数を16回と1回多く設定するなど内容の工夫、充実にも努めている。 2015年度第11回教務委員会資料9-1(2016年度心の充実授業計画_修正)</p>
II 教育課程 学生支援 A 教育課程	<p>A 教育課程 [キャリア教養学科] ① ディプロマ・ポリシーに基づいた英語教育の充実についてその成果を検証する。 ② 学びの水準を日本学術会議が示す参照基準などを参考にして設定する。 ③ 就業構造の変化に伴い、キャリア教育についてキャリア形成演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業を学生の現状に合わせて、例えば、公務員や四年制大学等への編入などへの進路を広げていくような工夫したものとし、この成果を検証する。</p> <p>[幼児教育保育学科] ① 入学者の一部に基礎学力の低下がみられ、学力を高めつつ年間50単位以上を修得するのが困難な学生もいる。入学前教育や補習授業などでこれらの学生に対応する必要がある。 ② 入学してから戸惑うことがないよう、受験生に対してアドミッション・ポリシーを周知させる。 ③ 就職した施設による卒業生の評価だけでな</p>	<p>A 教育課程 [キャリア教養学科] ① キャリア形成演習の充実の教育効果の測定 ② アドバンスクラスの効果の測定 ③ 情報・医療事務コースの安定した運営 ④ 国際文化研修の充実(プレ文化研修の実施)</p>	<p>A 教育課程 [キャリア教養学科] ① キャリア教育形成の充実の教育効果の測定については作文等の添削状況から質的に測定するが、各担当者の共通認識に基づいては実施されなかった。 ② アドバンスクラスの効果の測定について、就職状況(内定先、内定時期)はほかのクラスよりは良かったが、この効果の尺度についてはさらに研究が必要である(根拠資料:キャリア支援センターの就職状況) ③ 情報、医療事務コースの安定した運営については、講義、演習共に充実し、その結果「上級秘書士(メディカル秘書)」の取得者が計画当初に期待していた通りになった(根拠資料:教授会議事録「上級秘書士(メディカル秘書)」取得者数)。 ④ 国際文化研修については6月にプレ文化研修を福島県のブリテイツェヒルズで実施し、当初の計画通りの人数により実施できた。また、国際文化研修の在り方についてはプレ文化研修並びに目的型の新たな文化研修の新設など、現代の学生に適応したカリキュラムを検閲し、2018年度より実施することで合意している(根拠資料:キャリアイングリッシュⅢ受講数、学科会議議事録)</p>

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等 (根拠資料)
	く、卒業生による当該施設の評価も聴取し、相互評価システムを構築する必要がある。	〔幼児教育保育学科〕 ① 2016年度に向けて、入学前教育の内容と方法を検討する。 ② 受験生に対してアドミッション・ポリシーを周知させる。 ③ 就職した施設による卒業生の評価だけでなく、卒業生による当該施設の評価も含めて、できるところから実施する。	〔幼児教育保育学科〕 ① 入学前教育の通知を、入学予定者にわかりやすくするため、課題の通知書や指定の用紙を整理・統合・改編した。 ② 「2016年度募集要項」(P.1)及び「2016入試ガイド」(P.1)に記載し、周知した。 ③ 2015年12月22日に実施したホームカミングデーに於いて、2013年度及び2014年度卒業生51名を対象に、就職先の様子などを調査した(集計結果)。
II 教育課程と学生支援 B 学生支援	B 学生支援 〈教育資源の有効利用について〉 ① FD活動の四つの柱(授業アンケート、公開授業、研修会、研究会)を連動させ、学生の現状に合わせた授業の進め方の工夫などさらなる組織的なFD活動を進める。 ② 事務職員と教員が一体となりうるような一層の組織の合理化を進めるとともに、業務間の連携、助け合いができるように、柔軟な能力を形成し、スキルアップを図るためのOJT、研修会の在り方を検討する。 〈学習支援について〉 ① 学習アセスメントの実施時期と合わせて有効な初年次教育となるようにするとともに、これが平行テストと合わせ基礎学力の定着につながるようにする。 ② グローバルな観点から国際文化研修の参加環境を整備する。 〈学生の生活支援について〉 ① 学生のサークル活動を学びにつなげるように支援する。 ② ユニバーサルな観点から障がい者の受け入れの施設について検討する。 ③ 学生満足度調査で得られた学生の要望に関し、継続して取り組んでいく。 〈進路支援について〉 ① 両学科のキャリア教育と連携させて、キャリア支援センターの就職ガイダンス、就職セミナーの内容を充実させる。 ② 就職の質を向上させるとともに、公務員のさらなる合格を含め就職先の幅を広げる。 ③ 就職意識を高めるため、キャリア支援センターのカウンセリング機能を充実する。 〈アドミッション・ポリシーについて〉 ① 志願者に対して「入学者受け入れの方針」に示される志願者に求められる力、入学前教育の内容および入試制度の特徴を、広報を通じて適切に情報提供し、このことによっても入学志願者の動向を把握し、入試担当者との情報の共有を図る。	B 学生支援 〈教育資源の有効利用について〉 ① 2014年度のFD活動の成果をふまえながら、四つの活動―「授業アンケート」「公開授業」「授業研修会」「研究会」―を軸に、教育の質的向上につながる教員相互のいっそうの連携を実現する組織運営を行う。 ② 事務職員と教員が一体となりうるような組織の一層の合理化を進めるとともに、業務間の連携、助け合いができるように、柔軟な能力を形成し、スキルアップを図るためのOJT、研修会の在り方を検討し、できるところから実施する。	B 学生支援 〈教育資源の有効利用について〉 ① 2015(平成27)年6月15日から7月10日まで「FD研修会(公開授業)」を行った。この研修の目的は、期間内に他の教員の授業を参観し、その教授方法や授業運営から各自の授業改善に活かすヒントを得る機会とすることにある。参観して得た知見等については、「研修報告書」としてとりまとめ、その内容はFD委員会での確認を経て、9月定例教授会で報告された。研修項目のうち「学生の理解に対する配慮」について「大いに参考になった」「参考になった」との回答が約80%、また「学生との対話」についても同様の回答が90%あり、各教員が授業運営にあたりとくに重要視している観点が再確認された。 (「2015年度第1回常磐短期大学FD委員会 資料4」「2015年度第2回常磐短期大学FD委員会 資料3」「2015年度第3回常磐短期大学FD委員会 資料2」「2015年度第4回常磐短期大学FD委員会 資料3」「2015(平成27)年度常磐短期大学9月定例授会 資料7」)。 2015(平成27)年9月15日に「FD研修会(授業研修分科会)」を実施した。この研修会は、FD活動に関する知識と理解を深め、教授法等に対する意見交換を行うことで、教育の質的向上を図ることを目的とする。2015年度のテーマは、2014年度の「FD研修会(授業研修分科会)」における議論と「FD研究会」での講演(吉田宏之准教授「常磐短期大学におけるリメディアル教育と基礎学力拡充」)内容を教員一人ひとりが再検証する機会とするために、「リメディアル(教育)」と「学生を伸ばす環境づくり」とした。現状と課題について各教員の教育実践をもとに活発な意見交換がなされ、今後の方向性のひとつとして、1年生と2年生が関わり合う機会をどのように確保していくか、という課題が共有された。当日の議論の詳細は「報告書」にまとめ、FD委員会での確認を経て、11月定例教授会で報告された。(「2015年度第2回常磐短期大学FD委員会 資料3」「2015年度第3回常磐短期大学FD委員会 資料2」「2015年度第4回常磐短期大学FD委員会 資料2」「2015年度第5回常磐短期大学FD委員会 資料2」「2015(平成27)年度常磐短期大学11月定例授会 資料8-2」)。 2015年12月18日から2016年1月19日まで「授業アンケート」を実施した。アンケートは、「心の充実」「キャリア形成演習」「課題研究」「履修者(授業登録者)10名以下の科目」「実習等の実施困難な科目」を除くすべての科目を対象とした。アンケート結果は授業担当者にフィードバックされ、個々の授業構成に活かされることになる。(「2015年度第5回常磐短期大学FD委員会 資料4」「2015(平成27)年度常磐短期大学11月定例授会 資料8-1」)。 2015年度研究会を2016年3月2日に開催予定(講師:名城邦孝助教「常磐短期大学における学生の図書館活用の可能性(仮)」)で準備を進めている。(「2015年度第5回常磐短期大学FD委員会 資料3」「2015年度第6回常磐短期大学FD委員会 資料2」「2015(平成27)年度常磐短期大学12月定例授会 資料14」)。 ② 「学校法人常磐大学事務職員研修規程」第8条に基づき、職員研修制度運営委員会を設置し、SD研修として4つの研修(階層別研修、目的別研修、業務別研修、海外研修)の体系づくり、年次計画、プログラムの検討、研修受講者の選考等を中心に、各研修の目的に照らして協議、検討、実施、活動を行い、常任理事会等との連携で取り組んでいる。 ・「目的別研修」: 2015(平成27)年度について、職員研修制度運営委員会では前年度の研修成果を踏まえ、私立大学連盟主催研修会への職員の派遣を、職位別の観点により目的別研修を実施することとした。すなわち「創発思考プログラム(一般職コース)」「創発思考プログラム(管理職コース)」「大学職員短期集中研修」および「私学スタッフセミナー」(新規)の4テーマに絞り、関東私立短期大学協会主催研修会(事務局長等研修会)を加えた研修である。なお、オンデマンド研修(大学職員基礎コース)については、前年度の通り、希望者受講を継続している。 ・「業務別研修」: 2015(平成27)年度は、前年度に実施した「学生生活満足度調査」の結果を受けて、窓口対応などの改善・向上への取り組みが課題となった。このため、学生支援および進路支援関係の委員会および部署と職員研修制度運営委員会と同委員会事務部

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等 (根拠資料)
		<p>署とで協議し、「コミュニケーション力を磨く」をテーマにした業務別研修を企画し実施した。その効果等についても、その関係部署・委員会等で段階的に検証をすすめる。</p> <p>・ なお、[海外研修]については、高度専門職の設置等の制度改正の進捗に鑑みて、2016(平成28)年度以降の検討課題としている。</p> <p>〈学習支援について〉</p> <p>① 基礎学力向上のための課題を入学前教育として導入したことの効果を、学習アセスメントテストと平行テストの診断結果から明らかにする。</p> <p>② さらに、初年次教育として求められる内容を検討し、実施する。</p> <p>③ 国際文化研修の実施時期を、1年生の就職活動に不利益にならないよう、従来の春休み(2月上旬～3月上旬)から夏休み(8月)に変更し、4月末から参加説明会を複数回開催する。</p> <p>説明会では、引率教員がスライドで研修内容の紹介を行うほか、前年度の参加学生の報告も交える。</p> <p>さらに、研修先となるイギリスへの関心を高めるため、参加説明会と並行して、国際文化研修担当教員による、イギリスの歴史や文化を紹介する連続ミニ講座を複数回実施する。</p> <p>参加学生には、事前研修、および事後研修を複数回行い、現地研修の効果を高める。</p> <p>〈学生の生活支援について〉</p> <p>① ボランティアの推進に関しては、昨年度同様、学生支援センター内掲示板や屋外学生掲示板で周知したり、教職員から直接口頭により呼びかけをする等、情報の提供を積極的に行うことを計画している。ボランティア精神を涵養するため、新聞記事の掲示や他短大の取り組み事例を伝達し、啓発する計画である。</p> <p>公務員研究の支援に関しては、キャリア支援センターが短期大学生向けの公務員試験対策講座を2015年8月～2016年3月の期間に、22回開講し、公務員希望者に対して実施する計画である。また、授業期間内の火曜・木曜・金曜には、キャリア支援センター内フリースペースコーナーで、公務員試験および企業就職試験における筆記試験対策の勉強会ブースを設け実施する計画である。</p> <p>英語関係の自主活動については今年度よりキャリア教養学科で英検CATを実施し、積極的活用を促すとともに、授業外でサポートをする計画である。また英会話の自主活動のために交換留学生との英会話交流を秋semesterに実施したり、通年では、ネイティブ職員とのTalk Timeを実施する計画である。</p> <p>② 併設大学に在学している身体的障がい者への支援を中心に、施設設備課、学事センター、学生支援センターが連携し、改良すべき箇所を抽出し、対応を行う計画である。</p> <p>③ 学生満足度調査で得られた学生の要望に関し、2015年度に改善に向けた具体的な取り組みを行っていく計画である。</p>	<p>署とで協議し、「コミュニケーション力を磨く」をテーマにした業務別研修を企画し実施した。その効果等についても、その関係部署・委員会等で段階的に検証をすすめる。</p> <p>・ なお、[海外研修]については、高度専門職の設置等の制度改正の進捗に鑑みて、2016(平成28)年度以降の検討課題としている。</p> <p>〈学習支援について〉</p> <p>① キャリア教養学科では日本語と数学、幼児教育保育学科では日本語について、入学前教育で導入した基礎学力向上の課題の効果を、入学後に平行テストを行うことで確認した。その結果、平行テストでは、課題実施前に実施した学習アセスメント調査(テスト)より平均点にして28～54ポイントの上昇がみられた[学修サポート委員会短大委員報告]。また、学生に対し結果のフィードバックを実施し努力の成果を可視化して提示することで、学修への動機づけを高めることをねらった。</p> <p>② キャリア教養学科では、キャリア形成演習という基礎力補完の授業において、平行テストの結果と本人の就職希望先を考慮してクラスを4つに分けて、公務員などを志望するアドバンスクラスではそれに向けた対策を、対になるクラスでは、基礎力の育成に重点を置いた授業を行い、学生の学力と志望に応じた能力の育成を行った。</p> <p>幼児教育保育学科では、学外実習における実習日誌執筆に必要な基礎学力(主に漢字・語彙力)養成を目的として、1年生を対象に保育の基本用語に関するプログラムを実施した。</p> <p>③ 2015年8月6日～8月23日実施の英国に於ける語学研修の説明会を、4月～5月まで通算3回(4月28日、5月7日、5月13日)開催。併せて、英国文化に対する学生の関心を高めることを目的とした連続ミニ講座「イギリスは楽しい」を4回(4月30日、5月6日、5月12日、5月20日)開催した。さらに、2014年度の国際文化研修参加学生による体験発表(5月14日、5月19日)も行い、研修参加の意義を学生の視点から伝えた。また英国文化の紹介を目的に、2015年5月11日から5月19日までの期間、国際交流語学学習センターの一角で「イギリス展示」を行い、英国文学や伝統文化を紹介する機会を設けた。</p> <p>参加学生には、出発前に事前研修を7回実施し、視察先に関する課題調査、および調査内容の発表に取り組んだほか、英会話やホームステイについての心得などを学ぶ時間を含めた。帰国後の事後研修では報告書を作成し、「平成27年度常磐大学・常磐短期大学国際文化研修(イギリス)報告書」を発行した。</p> <p>詳細については、次のURLを参照。 http://www.tokiwa.ac.jp/intlco/short/britain/index.html</p> <p>〈学生の生活支援について〉</p> <p>① ボランティアの推進については、掲示板のほか、学生ポータルサイトに情報を送信し周知した。2015年9月の常総市の大水害(平成27年9月関東・東北豪雨)には個人で参加したものほか、大学で募集した企画へ3名が参加し、現地での活動にあたった。</p> <p>公務員研究の支援に関しては、キャリア支援センターが短期大学生向けの公務員試験対策講座を2015年8月～2016年3月の期間に、22回開講した。受講者は26名であった。これ以外については、授業期間内の火曜・木曜・金曜に、キャリア支援センター内フリースペースコーナーで、公務員試験および企業就職試験における筆記試験対策の勉強会を実施した。</p> <p>英検CATについては、入学直後、キャリア教養学科1年生全員(90名)に利用登録をさせて積極的な利用を促したが、結果的に利用した学生は全体の2割程度にとどまった。利用頻度は月1回から2回が多かった。利用率が伸びなかった理由として、学生の自主性に任せるあまり、授業と連動させて利用させる工夫が不足していたことが考えられる。この点については次年度以降の課題とした。</p> <p>交換留学生との英会話交流やTalk Timeでは、1年生数名が誘い合って参加した。こちらも少数にとどまった理由として、英語に苦手意識を感じている学生が多いことや課外学習にあてる時間管理に不慣れなことなどがあげられる。</p> <p>小さな成功体験を積み重ねて学習意欲を高める指導の工夫が、今後さらに必要であると考えられる。</p> <p>② 学生サークルの意見を参考にバリアフリーマップを作成した。さらに「障がいをもつ学生に対する合理的配慮」ガイドの作成を進めた。合理的配慮の内容を熟知し、対応方針を周知することを目的に全教員に配付した。</p> <p>③ 2014(平成26)年度に実施した学生満足度調査について、結果を分析し、改善の優先順位が高いものから、各担当部署へ改善要望を提出した。各担当部署はその要望に基づき、改善に向けた取</p>

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等 (根拠資料)
		<p>〈進路支援について〉</p> <p>① 両学科のキャリア教育と連携させて、キャリア支援センターの就職ガイダンス、就職セミナーの内容を充実させる。</p> <p>② 就職の質を向上させるとともに、課程内外の連携を強めながら公務員の合格を含め就職先の幅を広げる。</p> <p>③ 春セメスターより就職意識を高めるため、キャリア支援センターのカウンセリング機能を充実する。</p> <p>④ 卒業生の就職情報を整備することを検討し、できるところから実行する。</p> <p>⑤ 2014年度入学生から開講している、上級秘書士メディカルの教育課程履修生の就職活動支援のために、県内の医療機関等への広報活動と就職支援活動をキャリア支援センターとの連携で進めていく。</p> <p>〈アドミッション・ポリシーについて〉</p> <p>① 各種の入試が終了した時点でその都度量的、質的データに基づいて入学志願者の動向を把握し、入試制度の有効性について検証する。</p>	<p>り組み行い、実施状況についての報告を受け、報告書を作成した。報告書は学生が閲覧する事が出来るよう、学生掲示板や学内 web 上に公開した。(全学学生支援委員会会議資料)</p> <p>〈進路支援について〉</p> <p>① 両学科のキャリア支援担当教員とキャリア支援センター職員が常に連携して、年間を通してプログラムを進めることができた。</p> <p>② キャリア教養学科では、就職率90% (2016.2 現在) 達成し、金融・カーディーラー、大型小売業など一部上場企業の県内勤務者や地元優良企業に就職が内定した。また、幼教においては、公立幼保に1名が決まった。また、全体として内定率99% (2016.2 現在) を達成している。景気が良くなったとはいえ、有効求人倍率が全国平均に満たない茨城県内においては、善戦したといえる。</p> <p>③ 就職活動の3か月後ろ倒しによって、多少の混乱があったが、時期に合わせてキャリア支援センターの研修などが組まれて、進めることができた。</p> <p>④ 2014年度に初めて行った卒業生を招いての企業研究会を2015年度も実施した。大変親身になって、貴重なアドバイスを得られたと、在校生に好評であった。また、企業研究会のあと、簡単ではあるが意見交換会を行い、先輩後輩の交流が促進された。今後も継続していく予定である。</p> <p>⑤ 県内医療機関に上級秘書士メディカルのリーフレットをキャリア支援センターから発送した。また、本教育課程受講学生も開講時44名であったが、2015年度は61名に増加した。学生の関心もたかいので、引き続き医療機関への広報活動を積極的に進める必要があると考える。</p> <p>〈アドミッション・ポリシーについて〉</p> <p>① 量的側面であるが、キャリア教養学科は昨年度入学者91名であったのに対し、現時点での入学手続き者は81名で10名減っている。昨年度比でAOⅡ期を除いた他の入試形態で数を減らしている。ただ、定員を140名から100名に減員したため、定員充足率は81%で昨年度の65%を上回った。幼児教育保育学科は依然として定員を確保している。</p> <p>質的な面であるが、前回同様両学科に共通することであるが、必ずしも学科のアドミッション・ポリシーに合致した学生が一部いるのが問題点である。入学前教育・入学後の基礎学力強化をさらに図っていく必要がある。</p>
III 教育資源と財的資源	<p>A 人的資源</p> <p>① 教育研究では、キャリア教養学科の新規採用においては中期的にバランスのとれる年齢構成となるよう計画するとともに、本学の科学研究費補助金など外部資金獲得のための方策を検討し、来季採択に向けての申請数を増やす。</p> <p>② 学習成果を向上させる事務組織は教員と職員が一体となって教員サービス、学生サービスができるように、責任と権限を明確化し、合理的な組織とする。これにより教員の教育・研究に充てる時間的余裕を拡大していく。同様に、事務職員も部署間や部署内での助け合い、教えあいのなかで柔軟なスキルを身につける時間的余裕を生み出せるようにするために、研修を含めたSD体系を構築する。</p> <p>③ 本学の教育目的とこれを実現する3つのポリシーを担い取る事務職員として、求められる職員像を設定し、このもとで職能資格制度または役割等級制度とこれに基づく人事考課制度を構築し、昇格、昇進、昇給、教育訓練等に利用する体系をつくりあげる。</p> <p>④ 教員についても教育の目的や3つのポリシーを担い取る望ましい教員像を設定し、教員組織の編成方針を定める。</p> <p>B 物的資源</p> <p>① 建築物の耐久性向上に関しては外装材の更新が重要なファクターとなる。見和キャンパスでは、これまでに1990年代以前に竣工した建物の内、N棟、R棟(大学)を除く全ての建物の外装修繕を年次計画に沿って完了させてきた。2014(平成26)年度以降、N棟およびR棟の外装修繕を施す予定である。その後、2000(平成12)年以降竣工の建物も含め、2期目となる外装修繕の年次計画を立て、実施してい</p>	<p>① 年間を通じて科学研究費補助金の採択に向けて申請数を増やすように学事センターと協力して取り組む。</p> <p>② 年間を通じて教員サービス、学生サービスが学習成果を向上させるように、事務組織を合理化し、これを担い取る人材を確保するためにSD活動をFD活動と連携させながら実施する。</p> <p>③ 職能資格制度あるいは役割等級制度と連携させ、教育訓練活動を充実させる。</p> <p>④ FD活動のこれまでの成果と、社会からの教育への要求から、多様で実践的な教育を担い取る教員像をたえず検証しつつ、その相互規定的な関係のなかで、教員組織の編成原理とFD活動のいっそうの充実を図る。</p>	<p>① 2016年度の科研費応募に向けた説明会を2015年9月に実施した。2014年度実績より多くの参加者となるよう工夫をこらし、申請数の増加をめざした。2016年度は申請者数増に向け、引き続き学事センターと協力して取り組む。</p> <p>② 2015(平成27)年度は、前年度に実施した「学生生活満足度調査」の結果を受けて、窓口対応などの改善・向上への取り組みことが「業務別研修」の課題となった。このため、学生支援および進路支援関係の委員会および部署と職員研修制度運営委員会と同委員会事務部署とで協議し、「コミュニケーション力を磨く」をテーマにした業務別研修を企画し実施した。その効果等についても、その関係部署・委員会等で段階的に検証をすすめる。</p> <p>③ 5ヶ年経営改善計画の「教職員人事制度改革を検討・推進する」ため、「事務組織の見直し」「専門的職員(高度専門職)の設置」などの課題もあり、「職能資格制度(職務等級制度)あるいは役割等級制度と連携させ、教育訓練活動を充実させる」ことの必要性についても認識している。そのため、2015(平成27)年度以降に人事考課制度構築準備委員会を再始動し、今後に向け更に検討を進める方針である。</p> <p>④ 本学の教育目的とこれを実現するための3つのポリシーを十分に理解し、現代社会の要請に応える教育実践と生産的研究を担い取る短期大学に求められる教員像を教職員全体で共有するために、2015年度は4つのFD活動—(1)授業アンケート、(2)FD研修会(公開授業)、(3)FD研修会(授業研修分科会)、(4)FD研究会—を設定した(「2015年度第1回常磐短期大学FD委員会 資料3」)。年間テーマを2014年度に引き続き「自ら学ぶ力を育む」とし、とくに2015(平成27)年9月15日開催の「FD研修会(授業研修分科会)」は、前年度からの課題の検証の機会とするようにFD委員会で準備を進めた。</p> <p>個々の活動については、その目的・方法をFD委員会で事前に検討し、さらにその内容を定例教授会で十分に周知することで、各活動の成果が上がるように配慮した。活動後にはアンケートを実施し、各教員のフィードバックを心がけた。アンケート結果については、まずFD委員会で検討し、その上で教授会に報告するといふ、PDCAサイクルにもとづく手順を踏むことに留意した。(「2015年度第1回常磐短</p>

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等 (根拠資料)
	<p>く。</p> <p>② その他、自然環境の保全についても定期的かつ継続的な対策を実施する。これらにより、緑豊かな本学特有のキャンパスが維持される。</p> <p>③ 大学開学当初に竣工した建物は、30年を経過した。この間、床・壁等の修繕工事は必要に応じて実施してきたが、経年劣化に伴う建物構成部品(備品も含む)の不具合が顕著に見られるようになってきた。2014(平成26)年度以降、これらの改善を図るべく、年次計画を立て実施していく予定である。なお、この件については、中長期計画でも概要を示しており、詳細を詰める段階となっている。</p> <p>④ 全学的な避難訓練を実施する。</p> <p>C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源</p> <p>2014年度まで、主に1学年を対象に図書館が教員の協力を得て、情報メディアセンターガイダンスを授業内で実施してきた。これは、館内の利用方法と資料の配置、蔵書検索の方法などを説明することにより、学修に必須となる資料へのアクセスを支援してきたということである。これまで重視してきたこの対面型のガイダンスを変更して、学生がどこからでも学修できるようにするとともに、情報収集と検索方法の定着を促すため、「情報収集検索ガイダンス」のコンテンツを作成して、学内に配信する。</p> <p>D 財的資源</p> <p>キャリア教養学科について、2011(平成23)年度からの入学者の減少を鑑み、同学科を中心に損益分岐点と社会的な要請を勘案して定員数を削減していく。</p>	<p>⑤ キャンパス環境整備の一環として、経年劣化に伴う空調更新(Q棟地下系統:5期計画の4期目)、エレベーター更新(E棟)、ピアノ更新(J棟・個人練習室)を、それぞれの年次計画に基づき進めていく。また、L棟学生食堂の厨房機器更新、柔剣道場の一部改修、学生寮(茜梅寮)の環境整備を行なう。</p> <p>学生満足度調査結果への対応として、トイレの温水洗浄便座への更新を年次計画に基づき進めていく。</p> <p>⑥ 「情報収集検索ガイダンス」のコンテンツを2015(平成27)年5月までにウェブサイトへアップロードする。</p> <p>⑦ 2015年度中に避難訓練を実施する。これまで学生の避難訓練を念頭に実施していたが、職員や来訪者も想定した訓練を計画する。</p> <p>⑧ 短期大学将来構想委員会の役割等について検討し、今後に向け対応する。</p>	<p>期大学FD委員会資料4」「2015年度第2回常磐短期大学FD委員会資料3」「2015年度第3回常磐短期大学FD委員会資料2」「2015年度第4回常磐短期大学FD委員会資料2、資料3」「2015年度第5回常磐短期大学FD委員会資料2、資料3、資料4」「2015年度第6回常磐短期大学FD委員会資料2」「2015(平成27)年度常磐短期大学9月定例授会資料7」「2015(平成27)年度常磐短期大学11月定例授会資料8」「2015(平成27)年度常磐短期大学12月定例授会資料14」。</p> <p>短期大学に求められる、多様で実践的な教育を担い上げる教員像を教職員全体で共有するために、2015年度は、昨年に引き続き、以下の4つのFD活動を設け、実施した。①専任教員全員(及び非常勤教員の一部を含む)を対象とした、教員相互の授業公開型のFD研修を行い、授会にてそのアンケート結果を報告がされ、実践的な教育の在り様について検証を行った。②FD研修会(授業研修分科会)を実施し、両学科の専任教員がテーマごとに分かれディスカッションをおこない、教育の質の向上を図った。③FD研究会では、FD研修会(授業研修分科会)の討議に於いて浮かび上がった問題に即した内容の講演を実施し、それぞれの活動が連動する形をとることにより、より一層の充実を図った。④学生による授業アンケートを実施し、アンケート結果はFD委員会で検討の後、授会にて報告する予定である。</p> <p>⑤</p> <p>○キャンパス環境整備の一環として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q棟地下系統の空調更新 ・E棟のエレベーター更新 ・J棟・個人練習室のピアノ更新 ・L棟学生食堂の厨房機器更新 ・柔剣道場の更衣室改修工事 ・学生寮(茜梅寮)の機器等更新 <p>○トイレの整備(温水洗浄便座化)について以下を実施した。(併設大学箇所を含む)</p> <p>(1)2015年度実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G棟1F、B棟1F、N棟1F <p>(2)整備年次計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度…N棟3・4F、F棟2F ・2017年度…D棟1F、L棟1F、Q棟1F、Qs棟2・3F ・2018年度…R棟地下、T棟地下1F <p>⑥ 「情報収集検索ガイダンス」のコンテンツは、2015(平成27)年5月11日にウェブサイトへアップロードとなった。URLは次のとおり。</p> <p>http://www.tokiwa.ac.jp/~tucmi/lib/index_ref.html</p> <p>⑦ 2016(平成28)年2月10日にキャリア教養学科1年生75名、幼児教育保育学科2年生121名を対象とし、大地震が起きたと想定した避難訓練を実施した。(避難訓練の実施について/避難訓練短大WG)</p> <p>⑧ 学校教育法の改正に伴って、学長の権限および責任と授会の設置意義が明確になったので、将来構想に関しても学長の職権内に於いて随時諮問するという体制を整え、旧「常磐短期大学将来構想委員会」の役割とその機能を授会に移行した。それによって、より広く意見を聴取できる体制とした。</p>
IV リ ダ シ ッ ト ン ス	<p>A 理事長のリーダーシップ</p> <p>理事会の機能を高めるとともに、常任理事会を有効に運営し、理事長を中心として本法人の推進力を向上する。</p> <p>B 学長のリーダーシップ</p> <p>法人全体として、「常磐マニフェスト」の精神を継承し、より具体化した「3つの重点ポイント」に基づき、キャリア教養学科では学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに従い2013(平成25)年度に基礎的職業能力の一部としての学力の向上に資するように、学習内容を充実させ、次年度にそなえた。2014(平成26)年度にはこの有効性を検証する。</p> <p>C ガバナンス</p> <p>法人と教育現場との連携を深めながら、各課題に優先順位を定め計画を遂行する。</p>	<p>① 理事長は、5ヵ年経営改善計画(2013(平成25)年度～2017(平成29)年度)に基づいて計画実行のために、理事会、評議員会での議論を経て、健全な経営の維持、存続に努め、常任理事会においてより具体的な活動実現を推進する。</p> <p>② 理事長は、5ヵ年経営改善計画(2013年度～2017年度)の実現のために、管理部門と教学部門、理事長と学長の意見交換を活性化させ、あわせて常任理事会と授会との連携を充実させ生産性を高める。</p>	<p>① 5ヵ年経営改善計画の進捗確認を理事会・評議員会(2015(平成27)年11月26日)で審議し、計画の実現を推進した。健全な経営を維持することを目的として計画に掲げている組織改革については、大学院の一部研究科の募集停止を含む学則の変更に関する件(2015(平成27)年9月25日理事会・評議員会)、学部学科改組転換に関する件(2015(平成27)年9月25日理事会・評議員会)、学部設置に向けた応募企画書提出の件(2015(平成27)年9月25日理事会・評議員会)を決定した。常任理事会では、これらの議案を事前に議論するとともに、全学教員研究費規程運用細則の制定(2015(平成27)年9月2日常任理事会)を決議し、より具体的な計画を実現している。</p> <p>② 常任理事会では、大学・短期大学の学長、教授兼常任理事である教育担当常任理事が構成員として出席し、教学部門との情報共有を図っている。授会には、教育担当常任理事および事務局長が陪席し管理部門と意見交換を可能としている。常任理事会、授会との議事事項、決定事項については、双方で定期的な報告</p>

基準	改善計画	2015年度行動計画	2015年度行動計画の対応状況等 (根拠資料)
		<p>③ 学長は、あらゆる側面で副学長との意見調整を行うことで、建学の精神および学科の教育研究上の目的を達成させるよう、その実現に努める。</p> <p>④ 理事長は、教育予算委員会、予算編成会議および関係部署の意見を集約し、適切な予算の配分と適正かつ迅速な予算執行に努める。</p>	<p>事項として取り扱い、詳細の説明がなされている。なお、理事長と学長は定例的に面談し、管理部門と教学部門の連携の充実に努めている。</p> <p>③ 学長は、「心の充実」の授業などを通して、学生に対して建学の精神の理解を深めるよう努めた。また、常に副学長と緊密な連携を取り、本学の状況を把握しながら、カリキュラムポリシーに則り、学科の教育研究上の目的達成に努め、教育の質向上を図った。</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長は、予算編成会議にて協議した内容を基に、本法人の財政状況や学生生徒の入学状況なども見据え、予算配分の決定を行っている。予算編成会議の下にワーキンググループを設け、「次年度予算の基本方針案の作成」「予算編成の配分原則案」「その他予算編成、執行に関する案件」等について予算編成会議の事前協議を行い、適正かつ統制のとれた予算執行に努めている。また予算執行の際には、「予算執行に関する決裁規程」に基づき、業務効率化を図るとともに一定額以上の案件については理事長までの決裁とし、適正な執行管理を行っている。 ・予算編成会議スケジュール上期・下期 (予算編成会議 2015 年度第 1 回・第 5 回資料) ・「予算執行に関する決裁規程」 ・2016 年度予算編成方針の作成 (予算編成会議 2015 年度第 4 回資料) ・2016 年度予算編成説明会 (2015 年 7 月 31 日実施) ・2016 年度教育予算配分表作成および予算委員会委員の選任 (予算編成会議 2015 年度第 5 回資料)